

上宮寺通信

第八十一号

お米をシャリと呼ぶ理由

最近はいろいろなもの値段が上がり家計を苦しめています。特に話題にのぼるのが米の価格。昨年のコメ不足から価格が上がり続け、政府が備蓄米を放出してもなかなか落ち着きません。

日本人にとって主食であり、一番身近な食べ物とっていいお米ですが、日本に伝わったのは約三千年前のこと。中国の長江の中・下流地域で始まった稲作が日本の気候にも合い、また日本人の味覚にも合ったことから広まったといわれています。そして、お米の生産量が増えるのにしたがって人口も増加し

ていきました。まさに、お米は、日本人の命をつなぐ大切な食べ物とっていいでしょう。

そのお米ですが、お寿司屋さんで「シャリ」と呼ぶことはよく知られています。

この「シャリ」の語源は「仏舍利(ぶっしやり)」、つまりお釈迦様のご遺骨から来ているといわれます。

もともと「舍利」はサンスクリット語の「シャリーラ」の音写で、「身体、構成要素、死体」を意味する言葉です。複数形で使われると「遺骨」を意味し、特に聖者の遺骨を指す時に使われます。

お釈迦様は亡くなった後、火葬され、そのご遺骨が仏弟子たちに分配されたと伝えられています。

ます。そして仏舍利塔が建てられ大切に祀られていました。ただ、その中にご遺骨が納められていることを確認した証拠がなく、19世紀にはお釈迦様自体が実在していなかったのではないかと疑問も出てきたそうです。

しかし一八九八年にインドでお骨が納められた壺が発掘されました。壺に書かれた文字を研究することによってそのお骨がお釈迦様のものであることがわかり、実在を証明することになったそうです。

そのとき発掘された「仏舍利」はインドやスリランカ、タイなどの仏教国に安置されることになりました。日本でも明治時代にタイからその仏舍利の一部を譲り受け安置されることとなり

ました。それが名古屋にある覚王山日泰寺です。

お米を「シャリ」と呼ぶのは、お米がお釈迦様のご遺骨と同じように尊いものであるという意味が込められています。このことから日本人がいかにお米を大事にしてきたかがわかります。早くお米の価格が落ち着いてほしいですね。



仏事のキモチ②

～まつるの色

「年忌法要では赤(朱)色の蠟燭を用意してください」。真宗大谷派の仏事の本などを読むとこのような注意書きがされています。

実は昔から大谷派の蠟燭の基本の色は「朱」「金」「銀」の三色とされてきました。「白」はあくまでも代用(普段使い用)として近年使われるようになったそうです。

年忌法要は故人様を偲びつつ念仏の教えに触れる大切な行事です。ですからそのご縁を喜ぶ意味を込めて「朱」を使います。ちなみに「金」は結婚式などの慶事に、「銀」は葬儀などの弔事に使います。



◆話題あれこれ

○4月16日夜に東照宮舞樂祭が開催されました。新型コロナウイルスや雨天で中止となっており、6年ぶりの東照宮での舞樂。今年ほぼ全曲に演奏方として出ることになりました。装束が新調された曲もあり、夕暮れにほんのりとライトに照らされた舞人の姿はとても幻想的な雰囲気を感じ出していました。来年もまた開催できることを願っています。

○ホームページ、公式LINEもよろしくお願ひします。



ホームページ



公式 LINE

○4月2日に京都・東本願寺で行われていた「春の法要」に出仕してきました。年齢を重ねてだんだんと正座が辛くなってきている気がします。約1時間の法要がとても長く感じられました。

○あつという間に4月も終わり、今年も3分の1が過ぎてしまいました。少し前まで寒かったのですが、季節も一気に進み暖かく(暑く)なってきました。気候の変化に身体がついていきません。皆様も体調には十分お気を付けてください。



【雑感】

現在開催されている大阪・関西万博に日帰りで行ってきました。当初の予想より人気が出てきた万博。訪れた日も平日でしたがかなりの人出でした。それでもタイ、スペインなど6つほど海外パビリオンに入館。それぞれの国で趣向を凝らした展示はとても楽しかったです。注目の大屋根リングを一周歩くだけでも万博の雰囲気を十分楽しめます。ただ会場はとても広い。歩くだけでへとへとになりそうです。これから暑くなってくると、ちよつとたいへんかもしれないね。行かれる方は熱中症対策を万全に。(住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和区白金二丁目十九番十五号

☎052-871-0547